



頼まれごととは試されごと

中学校に入学してから約3週間が過ぎました。学校生活には慣れましたか。小学校とは違う授業スタイルや週番活動、部活動など新鮮に感じることも多いのではないのでしょうか。

本校の特色の一つとして活発な生徒会活動が挙げられますが、一人一役を意識した活動が朝から放課後まで位置付けられています。始業前の朝作業や授業開始前の呼び掛け、給食時のお盆配布、帰りの会でのプリント配布などのさまざまな活動に、臨時班でありながら一生懸命に取り組んでいる姿を見ると、とても清々しい気持ちになります。また、何人かの生徒が「先生、何か手伝いましょうか。」と自分で声を掛けたり、黙って友達の仕事を手伝ったりする姿を見聞きします。この短期間の成長に「さすが伊敷中生！」と感心することしきりです。

人から物事を頼まれると、大半の人は「面倒くさい」「自分でやれよ」と思う人が多いだろう、しかし、頼まれごととは試されごとなのだ。

これは、有限会社クロフネカンパニー代表取締役社長である中村文昭さんの言葉です。頼みごとをしてくる人は大抵困っていて頼みごとをしてきます。それはチャンスであり、自分を試しているのだということです。何かを頼む人は、どうでもいい人に頼むのではなく一生懸命やろうとする人に頼むもの。頼まれたら相手が想像している以上の行動で「驚き」を提供する。頼まれごとは、チャンスであり自分を試していることなのだ、と中村さんは話しています

確かに、何かを頼んだ時に、「仕方ない」と嫌々仕事をする人と、「はい！」と返事をして意欲的に仕事をする人がいたら、どちらが好印象でしょうか。良い結果を出してくれるかもしれないと期待され、次もお願いしたいと思われるのはもちろん後者の方ですよね。

学校生活における生徒会活動も同じだと思います。連休明けから各学級正式な前期学級生徒会の活動が始まります。中には、希望どおりではない係だった人や責任が重いなど感じている人がいるかもしれません。しかし、「できる」「やってくれる」と周りの人は期待しているのです。時には失敗もあるでしょう。大丈夫、一度失敗したら次はきょうまくいきます。迷いも出てくるかもしれませんが。そんな時は、「みんなのためになるのか、ならないのか。」で判断してください。

班長や副班長のように、みんなの前に出て指示をするような目立つ仕事もあれば、あまり目立たなくてもみんなのよりよい学校生活のために絶対必要で、他人が代わることのできない仕事もあります。学級のため学年のため、そして伊敷中学校のために、あなたはどんな役割を果たしていきたいですか。再来週からのみんなの姿に期待しています。



(週番の朝作業の様子)

★一年間よろしくお願ひします

今年度、一年部PTA役員を引き受けてくださった学級委員長さんを紹介します。

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1組 油木 佳加さん | 2組 中村 康子さん(学年副委員長) |
| 3組 林 奈緒子さん(学年委員長) | 4組 田平 絵利さん(学年書記) |
| 5組 油田まゆみさん | 6組 田中 貴子さん |

快く引き受けてくださり、ありがとうございます。子どもたちのために、ぜひ保護者のみなさまもご協力よろしくお願ひします。